

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071501169
法人名	医療法人親仁会
事業所名	グループホームひまわり
所在地	福岡県大牟田市西浜田町15-3
自己評価作成日	平成27年6月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成27年7月25日	評価結果確定日	平成27年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ※ 本人の思いを尊重し、家族の陽に支え合い、安心して住み続けられる様支援します。 ※ 認知症の啓発、地域住民との協働

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>同法人の診療所等がある2階に位置する「グループホームひまわり」は開設して15年目を迎え、長年診療所の患者である地域の方々からの信頼も厚い。毎週、行われる「認知症予防教室」は毎回8名ほど参加があり、体操や脳トレ、食事などを入居者の方々とともに楽しませている。徘徊模擬訓練や小学校での「絵本教室」において地域の子供民生委員をはじめとする子供たちとの交流やそれを通じた親との交流が進められ、認知症および認知症への関わりについて、啓発を行っている。今後も、「男性独居率」が高い地域性を踏まえ、引きこもり防止やコミュニケーションの機会を得るなど、地域貢献への意欲も高い。今年度中に新規移転の予定であり、新しい環境でますます活動の展開が期待される事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の学習を定期的に行い、話し合いを行っています。事業所の理念、自己の理念に添い入居者様とその人らしく安心して暮らせる様支援しています。	開設当初からの理念を手作りの貼り絵と共に掲示し共有に努めている。事業所の理念に沿ったスタッフ個々の理念も聴取し掲示することで意識付けを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	週1回程度、事業所内で、地域の方と入居者様との合同で、認知症予防教室を行っています。又、併設の診療所のデイケアの方々との交流やボランティアとして訪問して下さる地域の方もおられ日常的に交流を行っています。	地域交流広場を利用し、認知症予防教室として地域の方にドリルなど脳トレや運動の場を提供している。地域の方が布を切って、排泄時の物品として提供して下さることもある。徘徊模擬訓練をはじめ、認知症啓発事業の先進的な取り組みもあり、地域との連携や交流の機会も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	予防教室に参加されている地域の方々を通じ認知症に対する、理解に努めています。併設の事業所との合同での「もの忘れ検診」を定期的に行い、ミニ学習会等を行う事で、認知症に対する理解を深めて頂ける様に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月1回作成の「おたより」を発行し、会議では地域の方及び御家族代表にも参加して頂き日常の御様子をお伝えしています。参加者の方々よりの御意見を頂き、ケア会議等でサービスの向上に繋がるように話し合いを行っています。	運営推進会議は併設の診療所会議室にて定期的開催され、参加者からホームでの消防対策について質問があり、夜間帯は一人勤務である現状を説明したり、地域からもレインコートやリヤカーなどが役立つ等意見も頂ける機会があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	徘徊模擬訓練への参加及び大好き中友安心ネット会議への参加。啓蒙活動の「絵本教室」への参加協力を行っています。月2回程度安心介護員の方の訪問も頂いています。	徘徊模擬訓練では校区50人の参加があり、子供民生委員の活躍も広がっている。ホームとしては認知症の方への声掛けの仕方について啓発し、また絵本教室では認知症について子供からの率直な意見も聞きながら関わりについて共に考える機会としている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束による弊害についてや「人権」について学習会を行っています。安全・安心な生活を於けて頂ける様に、入居者様のシグナルの把握に努め、個々に応じたケアを行っています。	建物の構造上、死角となる部分が多いが日中は施錠せずにセンサーなどで対応している。離園があった際には原因や対策を検証しケアに生かし、利用者が何をしたいのか読み取りながら、拘束やスピーチロックとならない対応を意識付けしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止法」に定められた内容、事例を学び、虐待防止に努めています。虐待と思われる行為と判断した場合は、早期に対応できる様、職員全体で意識し、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等をとうし「権利侵害」について学び自己決定を尊重しています。入居者様の中に成年後見制度を利用されており、事例から学ばせて頂いています。	現在、権利擁護制度を活用している方もおり、行政担当課との連携も図りながら支援を行っている。その機会をもとに「成年後見人」とは何か学習したり、外部研修に参加する等している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改訂・変更の場合は御家族に説明と同意を得る様にしています。面会時は必ず、状態を報告し、ご心配な事等無いか伺う様に努めています。介護保険更新時にも同様にお話を伺い情報交換に努めています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の御家族懇親会では、運営推進会議内容(1回/2か月)の報告や今回、新築移転する為、進捗状況をお話したりしています。運営推進会議には御家族代表は参加され意見を頂いています。	家族会は、家族同士の交流やスタッフ・家族の交流の目的として1回/年実施している。利用者と共に運動や体操をしホームでの食事をバイキング形式で提供する等工夫しながら意見が言いやすい環境づくりに努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職場会議及び随時、意見交換を行い、業務改善を行っています。	管理者以外は非常勤ということではあるが、非常勤職員から「利用者の目線でケアをしてほしい」という前向きな意見が出るなど職員間の情報共有や業務改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	学習会や研修に参加を積極的に行い、知識の向上に努めています。ライセンス取得等目指す事で意欲向上、自己の成長に努めています。又研修レポート等にて成果を称える様にし、意欲が高まる様に努めています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用時は男女を問わず、経験やライセンス取得は問題にせず、意欲を重視しています。年2回程度の面接を行い自己実現へのサポートに努めています。	採用時は性別や年齢等による排除はせず、意欲を重視している。介護福祉士をめざし外部研修に参加希望する職員へは勤務の調整等も行っている。資格手当等、対応がされている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的に学習会や研修会に参加をしています。又、伝達学習会も行っています。	プライバシー保護や倫理規定の研修などにおいて人権尊重に関する啓発を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修、社協及び認知症実践塾(大牟田市主催)等の研修会に参加をしています。又、キャリア取得等にも協力をを行い、やりがい知識の向上に努めています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での他職場研修に送り出したり、又、受け入れも行っていきます。法人内の研修は介護職のみでなく医師、事務、看護等の研修も受け入れ、他職種との連携を学んでいます。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の契約時は元より、施設サービス計画書(1)に於いて、本人様のご希望及び不安等無いかなど、介護保険更新時に於いて等、定期的に御意向を伺う様にしています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御本人様同様、施設サービス計画書(1)に於いてや、介護保険更新時は元より、御面会時にも随時、意向を伺う様に努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式にて情報収集を行い、初期段階に於いて、まず、何を必要とされておられるのかの確認作業を行い、アセスメントを行っています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事を共にしたり、散歩等の時間等で、本人様の立場に立ち、日常生活の中で、何に困っておられるか、気持ちを表出されやすい雰囲気作りを努めています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様が楽しんで、趣味等を発揮される様な環境づくりや支援を行っています。御面会時は、日頃の御様子をお伝えし、御家族の事を心配されている事等、又、面会を楽しみにされている事をお伝えする様にしています。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御自宅の仏壇へのお参りや、居室にてお参りできる事環境作りを行い、安らいだり、安心される様に支援しています。 通い慣れた御家族に協力して頂き、通い慣れた病院への、外来通院を継続して頂いたりしています。	居室に仏壇を置きお参りをする方、お盆にお参りに同行、希望の美容院への同行、近隣住民が知人であり面会がある方、家族と外来受診に行かれる方への支援などなじみの人・場と関係継続ができるよう対応されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お話が合う方を近くの席にセッティングしたり日当たりの良いコーナーに、ソファを準備したりする事で、皆さんが集まって談笑される環境づくりに努めています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族に、退所後の御様子を伺ったり、入院への経過に至った場合に於いても、面会に伺い、他入居者様のご様子等伝えし、懐かしく思われ、お元気になられるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活習慣やその人らしい暮らし方を優先し、居室でテレビや音楽鑑賞される事で、寛いだ生活を送れるように支援しています。困難な場合は御家族の情報を基に、その人らしい暮らしを支援しています。	入居時はセンター方式を活用し家族や本人から情報を収集している。また、3か月ごとに生活状況の変化や気持ちの変化を確認するようにしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人ひとりの方のこれまでの暮らし方、馴染の物を把握し、その人らしい暮らし方の支援に努めています。センター方式の利用		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの暮らし方に合わせ支援しています。料理が得意な方、洗濯物たたみやお盆拭き等その方の力の発揮を支援しています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、御家族様の意向を伺うと共に、3か月のモニタリングを基に、ケアプラン会議を行い情報の共有、その方の望みに叶うプランづくりが出来る様に努めています。プランの評価課題分析を行い、問題点の抽出を行い次の課題にしています。	介護計画は3か月ごとに見直され、実施状況の評価がされている。担当者会議には、成年後見人の参加もあり利用者のケアや緊急時の対応、金銭管理等について意向や具体的な対応について確認がされている。	センター方式等で収集した意向や希望をもとにアセスメントを行い課題や目標の設定を行うと、実施しているサービス内容の根拠が明確となり、「その人らしい」計画・評価・実践につながると思われます。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の経過記録には内容、感じた事、対策を記入を行い、それを基に、ケア検討会議を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現段階に於いては他のサービスの活用はしていません。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	イベント時は併設のデイケアとの合同の催しを計画し参加しています。小学校のボランティアクラブの訪問や学童訪問が見える事で、皆様には大変喜んでいただいています。調理のボランティア等協力を得ています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の内科往診や必要時に、皮膚科も往診して頂いています。歯科による口腔内の健康管理も同時に行っています。急変時には待機看護師による対応が出来、安心した入居生活が出来ています。他病院へ受診されている方も医師間の連携を行っています。	入居時に、かかりつけ医について意向の確認を行っている。階下の診療所の往診や薬剤管理指導など連携が充実している。また同法人に認知症専門医がいるため、利用者の状態なども相談できる体制がある。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師で有り、日常の変化や観察に努めています。介護職は入浴介助時等、変化が有る場合には伝達や経過記録に記入を行う等、変化への対応に努めています。又、併設の診療所の往診への情報交換を行っています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は御家族の希望を伺い、入院先を検討しています。入院時付き添い日頃の状態の報告を行っています。入院された際は、度々入院先を訪問し、早期に退院されるように、病棟との情報交換や面談を行い、退院後の状態に応じた環境づくりや準備を行っています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の御様子をお伝えしながら、御高齢になられていかれる為、健康の維持が出来にくくなる事。その為、「看取り介護」についても、日頃よりお話ししています。職員は「看取り介護」について学び安楽な介護の提供に努める事が出来るように話し合い等行っています。	重度化や看取りについて、入居時に意向の確認を行っている。すぐにイメージできない家族にも「予測できること」として説明をしている。スタッフへは夜間の体制も考慮し、今までの経験を活かし、指導やフォローをしている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	診療所合同でのAED学習会や、急変時の処置対応を消防署の方より学んだりしています。研修会への参加も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設する診療所との合同消防避難訓練を年2回行っています。又、連絡網の作成を行い、体制確保に努めています。地域公民館長さんや民生委員さん、ボランティアさんへの協力依頼も行っていきます。	火災を想定した避難訓練を2回/年実施している。ホームが2階に位置しらせん階段での避難は困難であり、ベランダまでの避難訓練をしている。夜間想定訓練ではシーツでの搬送などを行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法的に守らなければならないものであり、精神的・身体的に屈辱的な結果にならないに常に意識する様に努めています。排泄介助時や汚染がみられた場合等、さりげなく声掛けを行う様に心がけています。又、協力して頂いた事に感謝の声掛けを行っています。	プライバシーには配慮し、夜間は施設して休まれる方も多い。排泄介助はトイレか自室で行い、常にドアを閉めるよう指導している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添う時間の中で、思いを自然に表出出来る環境づくりをしています。さりげない会話の中で、感じた事、発せられた事を記録に残し職員間での情報交換やケアプランへの本人様の思いにより近づける様に努めています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先に成らない様、お互いに職員間で意識する様にしています。入浴時等、本人さんの思いを優先し時間の配分を行ったりしています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗顔・整髪支援や着たい上着等を訪問販売に来て頂き、御自分で選んで頂く等ご希望に添える支援を行っています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を考える際に、メニューを一緒に考えたり食材の準備やテーブル拭き、お盆拭き等その方の力の発揮を支援しています。	毎朝、利用者から希望を聞き、職員やボランティアが食事を提供している。大根の皮むきなどできることは利用者も一緒に行っている。家族会でのバイキングやおやつ作りなど楽しむ工夫がされている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個人に合わせ、柔らめに準備したりしています。月1回の体重測定を行い体調の変化の指標にもしています。水分は定期的に準備したり、居室でも飲水出来る様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き援助を行っています。磨き残しの無い様に最期迄確認し支援しています。週1回の口腔ケアと月2回の医師による往診にて、口腔内のトラブル等の対応を早期に行えています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に応じた排泄パターンで排泄介助を行っています。日中はトレーニングパンツにて便座に座って頂き、自然排泄が出来る様に支援し配慮しています。	個々の状態に応じ、見守りや声掛け、介助など行っている。トイレでの排泄を基本とし、動線の歩行など自然な形で機能を維持できるように配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の体操や腹部マッサージを行っています。車椅子の方で、介助すれば歩ける方は、運動、リハビリを行っています。食事でも食物繊維の多いものや栄養のバランスにも考慮しています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一番風呂を希望される方、お一人で入りたい方は、安全に配慮し入浴中の声掛けや一部支援を行い楽しんで、入浴して頂く様に配慮しています。	1回/2日は入浴を行い、入浴しない日は陰臀部洗浄を行い皮膚トラブルがないように努めている。一人で入浴したい方へは見守りのみ、重度な方はシャワー浴や二人介助など個々の状態に応じた対応がされている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングの畳でお昼寝をされる方、ソファでゆっくりされる方、各々の休息の支援を行っています。夜間、一人での就寝に不安のある方は添い寝をし、安心して休んで頂いています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	業務日誌には、処方用紙を綴っておく事で、定期的に飲まれている薬に把握を行い、又、臨時で処方された薬は個人記録・経過記録に記載し、情報の伝達を行っています。誤薬の無い様に、2人で確認を行い服薬支援を行っています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝刊の番組欄を見るのが楽しみで、職員に今日の予定されている番組を教えて頂いています。居室で、音楽を聴かれて楽しまれていたり、好きな編み物等されています。散歩が好きな方もおられ、近くの公園迄等出かけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、お買い物等行っています。御家族と自宅の仏壇へのお参りへも、協力を頂き出かけています。併設のデイケアへお話しに行き、知り合いの御近所の方との談笑をされたり、楽しんでおられています。	利用者の状態に応じ、近隣のスーパーや階下のデイケアへ行くなど少人数ずつの外出を行っている。家族と共に自宅へ定期的に外出する方や近隣公園で行われる盆踊りへの参加なども行われている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	年金支給日には、依頼された必要分の金額を代引き落としに行っています。御自分のお小遣いで御買い物に行く事を楽しみにされています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族への電話かけを一緒に行っています。絵手紙を一緒に書き、御家族へお渡ししたりして頂いています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの好きな場所でテレビを見たり、お話をしたりされています。皆さんで作成した、季節感のある作品をホールに掲示し、時々眺めて楽しんでおられます。	事業所は2階に位置し、エレベーター前のホールや廊下、リビングはソファの設置や飾りつけで家庭的な雰囲気づくりを心掛けている。リビングにはたたみの休養スペースがありくつろげる空間がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際で日光浴を楽しんだり、ソファに座る事で寛いでおられます。気の合う方は、席を交代したりして頂いたりして、お話を楽しんでおられます。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で、使い慣れたテーブルで、お茶を飲まれたりされています。好きな歌手のポスターを壁に貼ったりし、楽しまれています。	居室には仏壇や筆筒、ソファなど持ち込まれ個人の生活空間として環境づくりに工夫されている。好きな歌手の写真が飾られたり、居心地の良い空間づくりにも配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレへの導線を解りやすく表示したり、御自分の居室が笑しやすい様にお写真を貼っています(本人様・御家族様同意を得て)勾配のある廊下には解りやすい様に表示しています。		